6 軸組工法（軸構造系）工事

⑪ 壁

非耐力壁 (5.9.1)
・仕口の形状, 留付け釘の種類, 留付け方法、接合金物等　※図示
軸組耐力壁 (5.9.2)
・軸組耐力壁の樹種、断面寸法、留付け方法、接合金物等　※図示
・軸組の柱脚・柱頭の仕口形状、接合方法　※図示
大壁造の面材耐力壁 (5.9.3)（表5.9.1）

構造用面材の種類	寸法・厚さ	留付け釘の種類・間隔
・構造用合板		

胴及び受材　樹種・寸法・釘の種類等　※図示 (5.9.3 (a)(2))
床勝ち大壁造の面材耐力壁 (5.9.4)（表5.9.2）

構造用面材の種類	寸法・厚さ	留付け釘の種類・間隔
・構造用せっこうボードA種		
・構造用せっこうボードB種		
・せっこうボード		

受材　樹種・寸法・釘の種類等　※図示 (5.9.4 (a)(2))
真壁造の面材耐力壁 (5.9.5)（表5.9.3）

構造用面材の種類	寸法・厚さ	留付け釘の種類・間隔
・構造用合板		

受材及び貫　樹種・　寸法・　釘の種類・　間隔・@　mm (5.9.5 (a)(b))
真壁造土塗壁耐力壁、面格子壁耐力壁、落とし込み板壁耐力壁、鉄筋耐力壁、 (5.9.6～5.9.10)
認定耐力壁の樹種、断面寸法、留付け方法、工法等　※図示による

1. 適用範囲

構造耐力上主要な部分（基礎及び基礎梁を除く）に、建築基準法施行令第46条第2項を適用した軸組の建築物に適用する。 (6.1.1)

2. 木　材

(a)集成材
・構造用集成材 G (6.2.2 (a))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	強度等級	材面の品質	接着性能
				・1種 ・2種 ・3種	・A ・B ・C

・化粧ばり構造用集成柱 G (6.2.2(a))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ(mm)
	化粧薄板：　芯材：		

(b)構造用単板積層材
・構造用単板積層材 G ・下記による ・図示 (6.2.2（b）)

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	等　級	曲げヤング係数区分	接着性能
			・特級 ・1級 ・2級		・1 ・2

(c)製材
・目視等級区分構造用製材 G (6.2.2 (c))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	構造材の種類	等　級	材面の品質	含水率(%)
					・無節・上小節・小節 ・15 ・20	

・機械等級区分構造用製材 G (6.2.2 (c))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	曲げ性能等級	丸み等の規定	材面の品質	含水率(%)
					・無節・上小節・小節 ・15 ・20	

・国土交通大臣の指定を受けた製材　・図示 (6.2.2 (c))
・基準強度　・含水率　%
・広葉樹製材 G (6.2.2 (c))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	等　級	材面の品質	含水率(%)
			・特等 ・1等 ・2等・無節	・上小節 ・小節	・10 ・13

・無等級材 G (6.2.2 (c))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	材面の品質	含水率(%)
			・無節 ・上小節 ・小節	・15 ・20

(d)枠組壁工法構造用製材・構造用たて継ぎ材は「7.枠組壁工法工事」による。 (6.2.2 (d)(e))
(f)木質接着成形軸材料、木質接着複合ﾊﾟﾈﾙ等 G (6.2.2(f))

施工箇所	形　状	寸　法（mm）	含水率（%）

3. 構造用面材

・合板の日本農林規格による構造用合板 G (6.2.3)

施工箇所	厚さ（mm）	等　級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用	強度等級の適用
		・1級 ・2級		・1類・特類			

・パーティクルボード G

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)

・構造用パネルの日本農林規格による構造用パネル G

施工箇所	等　級	厚さ（mm）
	・1級 ・2級 ・3級 ・4級	

4. 接合金物等

・接合金物 (6.2.4)
※Z・C・D・Sマーク表示金物とし、種別、規格、短期許容耐力等は図示による。
・製作接合金物　材質・形状寸法　※図示 ・
表面処理　※図示 ・
・特殊な釘,木ねじの材質、寸法、形状等
※図示 ・
・ボルト、アンカーボルト、ナット及び座金（Z,C,D,Sマーク表示金物）
※ 表5.2.2～4により種別等は図示による
アンカーボルト　材質　※SS400 ・
・ラグスクリュー、ドリフトピンの形状、寸法等
※図示 ・
・木栓・木だぼの樹種・形状・長さ等
※図示 ・
・接着剤　工　床鳴り防止用接着剤　・適用する（種類：※図示　）
接着剤による接合　・適用する（種類：※図示 ・　）

5. 木材の加工

・床書き原寸図　・作成する　・作成しない (6.4.2)
・表面仕上げ (6.4.6)
機械加工（製材）・A種 ・B種 ・C種　手加工（製材）・A種 ・B種 ・C種
（集成材）・A種 ※B種　（丸太材）・A種 ・B種
・木材保護塗料塗りの種別
施工箇所　※図示
・A種　※B種

6. 搬入及び建方

・アンカーボルトの寸法・埋込み深さ　※図示 (6.5.3)
・アンカーボルトの保持・埋込み工法　・A種　・B種
基礎天端、柱底均しモルタル　厚さ　※20mm程度 ・ (6.5.4)
工法　※B種　・A種
無収縮モルタルの適用　・有り　・無し

7. 接合金物の工法

・構造材を接合する釘及び木ねじの種類、本数、間隔　※図示 (6.5.8)
熱橋を形成する位置の接合金物の結露防止 (6.5.9)
・埋め木
・現場発泡断熱材
種類及び吹付厚さ　※A種1（厚さ　）
各接合金物の工法
・釘及び木ねじ　種類・間隔等　※図示 ・ (6.5.10)
構造材を仕上材として用いる場合の釘打ち
・隠し釘打ち　・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち　・釘頭隠し
・各種ボルト　種類・径・本数等　※図示 ・ (6.5.11)
・ラグスクリュー　形状・寸法　※図示 ・ (6.5.12)
・ドリフトピン　径　※図示 ・ (6.5.13)
・木だぼ　径　※図示 ・ (6.5.14)
・輪型ジベル接合　種類・材質・形状・寸法等　※図示 (6.5.15)
・圧入型ジベル接合　種類・材質・形状・寸法等　※図示 (6.5.16)

8. 軸組

土台　樹種及び断面寸法　※図示 ・ (6.6.1)
仕口及び継手の形状・位置　※図示
火打土台　・木材　樹種及び断面寸法　※図示 (6.6.2)
火打土台の種別　・木製火打土台
・鋼製火打土台
柱　柱の樹種及び断面寸法　※ 図示 ・ (6.6.3)
隅柱・通し柱の樹種及び断面寸法　※ 図示
仕口形状　※図示

9. 小屋組

小屋梁(平陸梁)　樹種及び断面寸法　※図示 (6.7.1)
仕口及び継手形状, 位置, 接合金物　※図示
小屋束　樹種及び断面寸法　※図示 (6.7.2)
仕口形状, 接合金物　※図示
登り梁(合掌)　樹種及び断面寸法　※図示 (6.7.3)
仕口形状, 接合金物　※図示
斜　材　樹種及び断面寸法　※図示 (6.7.4)
仕口形状, 接合金物　※図示
棟木・母屋　樹種及び断面寸法　※図示 (6.7.5)
継手形状及び位置, 接合金物　※図示
桁行筋かい・振れ止め　樹種及び断面寸法　※図示 (6.7.6)
留付け釘の種類及び留付け方法　※図示
垂木　樹種及び断面寸法　※図示 (6.7.7)
留付け釘の種類及び留付け方法, 接合金物　※図示
火打梁　・木材　樹種及び断面寸法　※図示 (6.7.8)
仕口形状, 接合金物　※図示
・鋼製火打梁　※図示
屋根野地板 (6.7.9)

種　類	厚さ(mm)	備　考
・構造用合板	※ 9 ・	接着の程度、釘種類・間隔　※図示

10. 床　組

床組は、5. 軸組構法（壁構造系）工事　10. 床組による。 (6.8.1～6.8.7)

7 枠組壁工法工事

1. 適用範囲

構造耐力上主要な部分（基礎及び基礎杭を除く。）に枠組壁構法を用いた建築物に適用する。 (7.1.1)

2. 木材等

(a)構造耐力上主要な部分に用いる枠組材
・枠組壁工法構造用製材 G (7.2.2 (a))

規　格	施工箇所	樹種又は樹種群	寸法形式(mm)	等　級
・甲種枠組材				・特級 ・1級 ・2級 ・3級
				・特級 ・1級 ・2級 ・3級
				・特級 ・1級 ・2級 ・3級
・乙種枠組材				・ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾕﾃｨﾘﾃｨ
				・ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾕﾃｨﾘﾃｨ
				・ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾕﾃｨﾘﾃｨ
・MSR製材				(曲げ応力等級)　・
				(曲げ応力等級)　・

・枠組壁工法構造用たて継ぎ材 G (7.2.2 (a))

規　格	施工箇所	樹種又は樹種群	寸法形式(mm)	等　級
・たて枠用 たて継ぎ材				・特級 ・1級 ・2級 ・3級
				・特級 ・1級 ・2級 ・3級
				・特級 ・1級 ・2級 ・3級
・甲種たて継ぎ材				・特級 ・1級 ・2級 ・3級
				・特級 ・1級 ・2級 ・3級
・乙種たて継ぎ材				・ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾕﾃｨﾘﾃｨ
				・ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾕﾃｨﾘﾃｨ
				・ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾕﾃｨﾘﾃｨ

・下地用製材（筋かい材） G (7.2.2(a))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	等　級	含水率(%)
			・1級 ・2級	・15 ※20

集成材
・構造用集成材 G (7.2.2 (a))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	強度等級	材面の品質	接着性能
				・1種 ・2種 ・3種	・A ・B ・C

・化粧ばり構造用集成柱 G (7.2.2(a))

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ(mm)
	化粧薄板：　芯材：		

8 丸太組構法工事

1. 適用範囲

構造耐力上主要な部分（基礎及び基礎杭は除く）に丸太組構法を用いた、延べ面積300㎡以下、高さが8.5m以下、地階を除く階数が1以下（小屋裏利用2階建ては可）、耐力壁相互の距離は6m以下で、かつ、耐力壁線荷より囲まれた部分の水平投影面積が30㎡以下の小規模建築物。 (8.1.1)
・適用範囲以外　※構造計算により安全を確かめる。

2. 材　料

機械加工の丸太組壁用木材 G (8.2.2)

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	品　質	含水率(%)
			・図示 ・木造標準仕様書8.2.2.(1)(ｱ)による	・20%以下

手加工の丸太組壁用木材 G

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	品　質	含水率(%)
			・図示 ・木造標準仕様書8.2.2.(2)(ｱ)による	

構造用単板積層材
・構造用単板積層材 G (7.2.2（a）)

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	等　級	曲げヤング係数区分	接着性能
			・特級 ・1級 ・2級		・1 ・2

構造用銅材
・薄板軽量形鋼は、次による。 (7.2.2（a）)

寸法・厚さ（mm）	強　度	表面処理

木質接着成形軸材料、木質複合軸材料、木質断熱複合パネル、木質接着複合ﾊﾟﾈﾙ
・木質接着成形軸材料、木質接着複合ﾊﾟﾈﾙ等 G (7.2.2(a))

材料の種別	施工箇所	形　状	寸法（mm）	含水率（%）

（b）床材、壁材及び屋根下地材
・床材、壁材、屋根下地材 (7.2.2（b）)
※木造特記仕様書 5. 軸組構法（壁構造系）工事の3. 構造用面材による。
・下地用製材 G (7.2.2（b）)

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	等　級	含水率(%)
			※1級	※20

3. 接合金物等

・特殊な釘,木ねじの材質、寸法、形状等（(7.2.3)(a)(ｱ)～(ｳ)以外） (7.2.3)
※図示 ・
・接合金物　※Z・C・D・Sマーク表示金物とし、種別、規格、短期許容耐力等は図示による。 (7.2.3)
・製作接合金物　材質・形状寸法　※図示 ・
表面処理　※図示 ・
・ボルト、アンカーボルト、ナット及び座金 (7.2.3) 表7.2.4～6
・ C、Z、D、Sマーク規格品（種類、規格、短期許容耐力等は図示による）
・ 表7.2.4～6により種類、材質、強度、寸法等は図示による
・接着剤JIS A 5550(床根太用接着剤）の種類 ・

4. 搬入及び建て方

・アンカーボルトの埋込み深さ　（　mm）　・図示 (7.5.3)
・アンカーボルトの保持・埋込み工法　・A種　・B種
基礎天端、柱底均しモルタル　厚さ　※20mm程度 ・ (7.5.4)
無収縮モルタルの適用　・有り　・無し

5. 工　法

・釘及び木ねじの工法 (7.5.6)
釘の種類・間隔。打ち方　※国土交通省告示第1540号（枠組壁工法技術基準）による。
・図示

6. 土　台

・土台の断面寸法　（　×　）mm　・図示 (7.6.1)
・仕口及び継手形状・緊結方法　※図示 ・

7. 床枠組

・床根太　断面寸法　（　×　）mm　間隔@　・図示 (7.7.1(1))
転び止め　寸法形式　・　・図示 ・
・床枠の取り付け方法・緊結方法・補強方法 (7.7.1(1))
※国土交通省告示第1540号（枠組壁工法技術基準）による。
・図示
・床版に複合パネルの使用　木質断熱複合パネル ・使用する
木質接着複合パネル ・使用する
・床材の取り付け方法 (7.7.1(2))
※国土交通省告示第1540号（枠組壁工法技術基準）による。
・図示
・大引、床束 (7.7.2)

部　位	樹　種	記号、寸法・	間隔（mm）	その他
大引				
束				
根がらみ貫				

8. 壁枠組

・束材　・鋼製床束　・樹脂製床束
仕様（　・図示　）設置方法（・図示　）
・耐力壁のたて枠、下枠、上枠　・下記による　・図示 (7.8.1(a))
たて枠　寸法・図示　・（　×　）mm　間隔・@
下枠　寸法　・図示　・（　×　）mm
上枠　寸法　・図示　・（　×　）mm
・頭つなぎを設けない場合　※建物全体の許容応力度計算を行う。 (7.8.1(a))
・開口上部ぐさ　材料　・図示 ・ (7.8.1(a))
断面寸法　・図示　・（　×　）mm
・壁枠組の補強方法・緊結方法・たて枠欠き込み (7.8.1(a))
※国土交通省告示第1540号（枠組壁工法技術基準）による。
・図示
・壁版に複合パネルの使用　木質断熱複合パネル ・使用する (7.8.1(a))
木質接着複合パネル ・使用する
・間仕切り壁（耐力壁以外）に薄板軽量形鋼の使用 (7.8.1(a))
・使用する　寸法等　・図示
・壁材の取付け方法　・図示 ・ (7.8.1(b))

9. 小屋組及び屋根

・部材の断面寸法他 (7.9.1(a)(b))

部　位	材　料	記号・寸法	その他
垂木			間隔（mm）
鋼製天井根太			

・小屋組に複合パネルの使用　木質断熱複合パネル ・使用する (7.9.1(a))
木質接着複合パネル ・使用する
・トラス方式　※図示 ・ (7.9.1(c))
・屋根梁方式・束立て方式　※図示 ・ (7.9.1(d))
・小屋組材の釘・金物・取付け・緊結方法等 (7.9.1)
※国土交通省告示第1541号（壁・床版の構造方法）による。
・図示

3. 接合金物等

丸太組壁以外に用いる木材 (8.2.3)
※ 製材は、本特記仕様書5. 軸組構法（壁構造系）工事2. 木材及び7. 枠組壁工法工事2. 木材　による。
構造用面材 (8.2.3)
※構造用面材は、本特記仕様書5. 軸組構法（壁構造系）工事2. 構造用面材による。
・接合金物 (8.2.5(a))
※M・Z・C・D・Sマーク表示金物とし、種別、規格、短期許容耐力等は図示による。
・製作接合金物　材質・形状寸法　※図示 ・
表面処理　※図示 ・
・ラグスクリューだぼ　・Zマーク表示金物（規格等・　） (8.2.5(b))
・木造標準仕様書8.2.6のボルトによる（寸法, 形状等　・図示　・　）
・ジャッキボルト、座金　※図示 ・ (8.2.5(c))
・垂木用スライド金物　※図示 ・ (8.2.5(d))
・特殊な釘の材質、寸法、形状等(8.2.5)(e)(1)～(3)以外)　※図示 ・ (8.2.5(e))
・ボルト、アンカーボルト、ナット及び座金 (8.2.5(f)) 表8.2.6～8
・ Zマーク規格品（種類、規格、短期許容耐力等は図示による）
・ 表8.2.6～8により種類、材質、強度、寸法等は図示による
・通しボルト呼び径、座金等 (8.2.5(g))
・Mマーク規格品（規格等は図示による）
・8.2.5(g)により材質、強度、寸法等は図示による
・床嵩り防止用接着剤の適用、種類　適用　・する（種類 ※図示　） (8.2.5(h))

4. 丸太組壁の加工

機械加工　断面形状（表8.4.1より）　・(イ)　・(ロ)　・(ハ)　・(ニ) (8.4.2)
見付け高さ、重なり幅、部材幅　※図示 ・
丸太組壁用木材の交差部　・壁面より200mm未満の場合の補強方法　※図示 (8.4.3)
丸太組壁以外に用いる木材　・仕口・継手の工法　※図示 ・ (8.4.6)
・表面仕上げ　・A種　※B種　・C種
・木材保護塗料塗り（WP）　施工箇所　※図示　種別・A種　※B種
丸太組壁の端部及び開口部周囲に補強材を入れる場合の樹種・断面寸法・取り付け工法等 (8.4.8)
※図示 ・
見え掛り面の表面仕上げ (8.4.6)
機械加工（製材）・A種 ・B種 ・C種　手加工（製材）・A種 ・B種 ・C種
（構造用集成材）・A種 ※B種　（丸太材）・A種 ・B種
（丸太材）・A種 ・B種
仮組立　・適用する ・適用しない (8.4.9)

5. 建　方

・アンカーボルトの寸法・埋込み深さ　※図示 ・ (8.5.3)
・アンカーボルトの保持・埋込み工法　・A種 ・B種
基礎天端、柱底均しモルタル　厚さ　※20mm程度 ・ (8.5.4)
無収縮モルタルの適用　・有り　・無し
だぼの工法　・木だぼの本数・間隔　※図示 ・ (8.5.6)
・鋼製だぼの本数・間隔　※図示 ・
・ラグスクリューだぼの形状・寸法・本数・間隔・座金　※図示 ・
通しボルトの工法 (8.5.7)
・通しボルトの種類・径・本数・間隔・座金　※図示 ・
・耐力壁の上端部・中間部での締め付け・増締めの工法　※図示 ・
・共通仕様書以外の増締め時期（　）
ジャッキボルトの工法 (8.5.8)
・共通仕様書以外の増締め時期（　）
垂木用スライド金物の工法 (8.5.9)
・取付け木ねじ及び釘の径・長さ・本数　※図示 ・
釘及び木ねじの工法 (8.5.11)
・各部位の釘の種類・間隔　※図示 ・
・仕上げ材とする場合の釘打ち
・隠し釘打ち　・釘頭埋め木　・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し
各種ボルトの工法　・ボルトの種類・径・本数・間隔・座金　※図示 ・ (8.5.12)

6. 土　台

土　台　・土台の樹種・断面寸法・仕口及び継手の形状　※図示 ・ (8.6.1)
火打土台　・木製火打土台の樹種・断面寸法　※図示 ・ (8.6.2)
・鋼製火打土台の材種・断面寸法　※図示 ・
・火打土台省略時の釘の種類・間隔留め付け方法等　※図示 ・

7. 丸太組壁

出隅交差部のでず法が200mm未満の補強方法　※図示 ・ (8.6.3)
耐力壁内のだぼ及び通しボルトの本数・位置　※図示 ・

8. 小屋組

小屋組み方式　・垂木方式　・束立方式　・トラス方式 (8.7.1)
小屋組と耐力壁等との接合金物寸法 (8.7.1)

部　材	接合金物の寸法・・・・
垂木と桁材等・・	
桁材と壁材等・・	

小屋梁等の仕様、接合方法　・下記による　・図示による (8.7.2) ～ (8.7.6)

部　位	樹　種	断面寸法・束口寸法	仕口	継手	接合金物・接合具
小屋梁					
小屋束					
登り梁					
斜　材					
棟　木 母　屋					

桁行筋かい・振れ止め　・樹種, 断面寸法　※図示 ・ (8.7.7)
・釘, 留付け方法　※図示 ・
垂　木　・樹種, 断面寸法　※図示 ・ (8.7.8)
・釘, 留付け方法　※図示 ・
・軒先部の留付け方法, 接合金物　※図示 ・
屋根野地板 (8.7.10)

種　類	厚さ(mm)	備　考
・ひき板	※ 9 ・	継手・取付け方法　※図示
・構造用合板	※ 9 ・	接着の程度, 釘種類・間隔　※図示
・構造用パネル	※ 12 ・	釘種類・間隔　※図示

9. 床　組

床組は、5. 軸組構法（壁構造系）工事　10. 床組みによる。 (8.8.1～8.8.7)

10. 丸太組壁と取合う造作工事

木材の樹種・寸法　※図示 ・ (8.9.1)
ジャッキボルトの形状・材質　※図示 ・ (8.9.2)
間仕切壁の木材の種別・樹種　※図示 ・ (8.9.3)
屋外建具回り　・断熱材　※図示 ・ (8.9.9)
・防水テープ　※標準仕様書10.4.2、表10.4.1による。

H29.6

・特記事項

株式会社 中居都市建築設計
nakai architecture design Co.,ltd
岩手県盛岡市南大通二丁目1-20　TEL 019 - 654 - 2311

PROJECT	SCALE	管理建築士	構造設計	
永井保育園大規模改修工事		一級建築士(建設大臣)登録168463号 平谷 伸吾		
TITLE	DATE	建築士事務所登録	検 図	DRAWING / SHEET NO.
特記仕様書-2	2018.09	一級建築士事務所(岩手県)知事登録 第え(2212)1272号		A-02